

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

市町名 35216山陽小野田市

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

市町名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	目標値	実績値	本年度の目標値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	目標等の公表先
35216山陽小野田市	①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	学校支援・地域貢献における児童生徒の参画については、大人が活動機会を用意する取組が多い。児童生徒の意見を取り入れた活動を実施することで、児童生徒の主体性や自主性を育み、地域の活性化につなげる必要がある。	学校運営協議会及び地域教育協議会等の協議の場において、児童生徒を参画させる。	学校地域連携カリキュラムの見直し・改善と併せて、児童生徒が学運協・地協協に参画していない学校については、市教委から指導・助言を行い実施してもらう。また、開催時間等により対面による参画が難しい場合は、児童生徒からの意見を聴取し、協議会で取り入れるなど工夫を凝らし実施する。	各種協議会に児童生徒が参画することで、児童生徒にわたって主体性・自主性が育まれ、地域社会における市民の成長の基となることである。また、児童生徒の意見を生かした取組は、地域住民のやがてにもつながら、地域の活性化、発展した地域づくりへとつながっていく。	学校運営協議会及び地域教育協議会の協議の場に子どもが参加した割合	94	%	100	94	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる。	協議の場に子どもが参加した割合は変わっていないが、学校運営協議会や教職員に対して「地域住民と児童生徒等がともに考えている場を設けているか」というアンケートを毎年実施しており、ここ数年は上昇傾向が見られる。	https://www.city.sanvo-onoda.lg.jp/soshiki/44/tiikigakkuikyoudoukatudou.html
35216山陽小野田市	①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	本市の地域連携教育における重点取組事項の一つに「地域資源を活用したふるさとを愛する心の育成」を掲げている。コロナ後に地域連携教育の再加速を推進しているものの、協働活動や地域行事が停滞したままの校区も見られる。	本市で開催している地域連携に関する研修会に関係者を集め、多様な活動につながるよう連携強化を図る。	①地域連携教育研修会の継続的な実施及び内容の充実による関係者の資質向上。 ②地域学校協働活動推進員のみで実施する情報交換会の定期的な実施。 ③推進員の資質向上により、活動の裾野を広げる。	児童・生徒が地域の人々と関わる取組、特に地域貢献を題材とした協働活動を充実させていくことで、児童・生徒の「ふるさとを愛する心」の育成を図っていく。	(CS連携調査アンケート児童6年・生徒3年対象)「大人になったら、住んでみたい地域のために何をしたいですか」の肯定的な児童生徒の割合	69	%	80	96	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた。	今年度、アンケートの文章を「あなたは、大人になったときに、どこに住んでいても住んでいる地域(ふるさと)を大事にしたいですか」に変更し、児童生徒の真意を伺うとともに、質問したい対象地域がふるさと山陽小野田であることがはっきりと読み取れるようにした。その結果、今年度のアンケートでは肯定率が96%に上昇した。	https://www.city.sanvo-onoda.lg.jp/soshiki/44/tiikigakkuikyoudoukatudou.html
35216山陽小野田市	①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	地域学校協働活動を推進していくうえで、関係者への連絡調整やボランティアの募集・確保の役割を、地域連携担当教員が担うケースもあり、教職員の負担となっている。また、それに伴い協働活動の裾野が広がっていない。	地域学校協働活動推進の資質向上に向けた研修と連携強化に向けた情報交換会の充実を図る。	地域学校協働活動推進員のみを対象とした研修機会を創出し、推進員の役割について明確に示すとともに、先進事例を紹介し意識を高めていく。また情報交換会を定期的に開催し、他校の推進員が所属している在市内署において情報共有、役割の明確化、企画力等の向上を図っていく。各校へは、推進員への関わりや増加を積極的に行うよう働きかける。	地域学校協働活動推進員が、関係者への連絡調整やボランティアの募集・確保等に従事することで、地域連携担当教員を含む教員の子どもの向き合う時間を増やしていく。また、活動の裾野を広げていく。	地域学校協働活動推進員の活動時間(1・2学期分)	758	時間	850	1018	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。	本年度の目標値を上回るとともに、地域学校協働活動推進員の活動時間も昨年度よりも増加している。学校によっては、地域学校協働活動推進員を2名体制にするなど、体制整備を行うとともに、各種研修会や情報交換会への参加を促すことで推進員の資質と意欲の向上につながっている。	https://www.city.sanvo-onoda.lg.jp/soshiki/44/tiikigakkuikyoudoukatudou.html